

# ズボラな私にも グリーンの ある暮らしを！

Text by Yuka Yamamoto  
文 山本由香

「都会にもっとグリーンを」をモットーに、ハンス・アンダーソンとヨハン・スヴェンソンが2004年に結成したグリーンフォーチュンは、アーバン・カルチベーションを広めているスウェーデンの企業だ。2人は北欧のデザイン集団、スノウクラッシュのメンバーだったが、グループが解散した後も2人で仕事を続けたいとの思いからグリーンフォーチュンを立ち上げた。ヨハンの父親が栽培関連の仕事をしていたこともあり、アーバン・カルチベーションのアイデアが確立するのにそれほど時間はかからなかった。

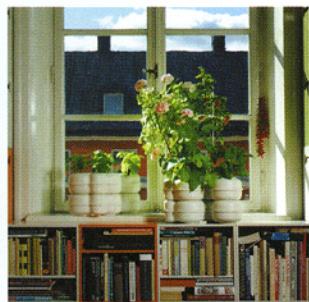
「僕たちのアイデアは、東京のような大都会に暮らす人々にこそ最適なんです。都会に住んでいるからといってグリーンに触れる機会が少ないと諦めないで」とハンスは言う。彼らのアイデアは水耕栽培の技術を用いているので、都会でも簡単にグリーンを増やすことができるのだ。実際、ストックホルム市内にあるカルチャーハウスの屋上をグリーンで埋め尽くしたこともある。

もっと手軽に家庭や職場でグリーンを楽しむために、彼らは個人用の水耕栽培キット「ストリームガーデン」を開発した。NASAの宇宙ステーションでも使われている栽培方法で、どんな環境下でも温室と同じ方法で気軽に植物の栽培が楽しめるのだ。観葉植物を育てる人は多いが、つい

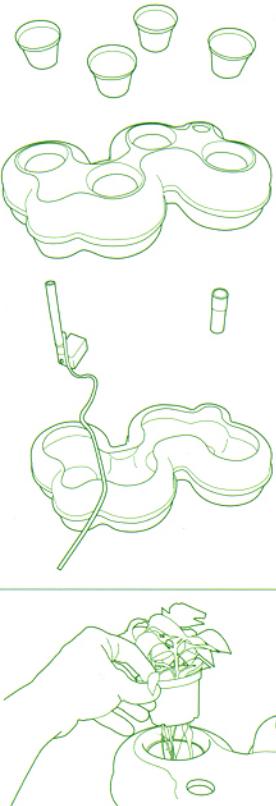
水やりを忘れ、枯らしてしまった経験のある方も多いのではないだろうか。ストリームガーデンは水やりの心配がほとんどないので、多忙な人にも育てられると好評だ。

パブリックスペースにもっとグリーンを、とのアイデアから誕生したのがプランツウォールだ。壁一面に完璧なまでに育った植物の新鮮さに、それが本物なのか疑うほどの出来だ。また、フロアスペースを使わないので、スペースの削減もできる。見た目の美しさはいうまでもなく、空気が常にリフレッシュされるので、室内で仕事をする人々は気持ちよく過ごせる。プランツウォールを初めて設置したファッションブランド、フィリッパコ・イースで働く人々は、店内のグリーンのおかげで外にリフレッシュに行く必要もなく、午後に頭痛が起ることもなくなったという。

職場にグリーンを増やしたら、病気で休む人が減ったり、咳や頭痛、かゆみといった症状も軽減するという。植物が人々に与える影響は計り知れないのだ。都会暮らしの人々はバリバリと仕事をこなし、ほしいものを手に入れ、エンターテイメントやカルチャーも楽しんでいる。しかしその分ストレスもたまりやすい。そんな都会に暮らすからこそ、気軽にリフレッシュできるアーバン・カルチベーションのアイデアが重宝されていくに違いないだろう。



ストリームガーデンの2段あるポットの下段に水と肥料を入れる。ポットに仕組まれた水中ポンプが水を巡回させ、植物のある上段ポットに水が行き渡るという仕組み。下段の水の量を1週間に1回程度チェックし、水が減っていれば足し、3カ月に1度は肥料ごと水を交換する。日本ではルームキットにて日本様のものを発売予定。  
[www.roomkit.com/shop/streamgarden\\_reservation](http://www.roomkit.com/shop/streamgarden_reservation)  
ルームキット Tel. 0120-652-332



ユニークなフォルムの水耕栽培キット「ストリームガーデン」。一般的な観葉植物の他、ハーブ類も育てられる。

中央・グリーンフォーチュンの2人。左からハンス・アンダーソン、ヨハン・スヴェンソン。

下中央・カルチャーハウスの屋上のグリーン。下右・フィリッパコ・イースで設置されたプランツウォール。

Photographs & Illustration by Green Fortune